

## 土壤凍結深度の測定

平成12年頃から発生し始めた標茶町雷別地区のトドマツ壮齡人工林の立枯被害は、冬季の寡雪により土壤凍結が深く進み、水分通導機能が極度に低下し、樹冠部に強い水ストレスがかかったことが発生原因と推定されています。しかし、土壤凍結の実態については、詳しく調べられていないのが実情です。

当センターでは、凍結の実態を把握するため、立枯の顕著な箇所、被害が発生していない人工林と広葉樹林に凍結深度計を10箇所埋設し、本年1月から土壤が融解する5月頃までを目途に、凍結深度を測定しています。

この凍結深度計は外管と内管で構成され、内管にはメチレンブルー溶液が封入してあり、外管・内管ともに土中に埋設し、測定時には内管を引き出して計測します。このメチレンブルー溶液は凍結すると青色から無色に脱色する特性があり、その脱色部分の長さを計測することにより土壤凍結の深度を計測します。今後、月2回程度の頻度で調査を継続する予定です。



凍結深度計